

南風録

GAP (Good Agricultural Practice) と呼ばれる農場管理の手法がある。「良い農業のやり方」を表す英語の頭文字で、もともと欧州で普及し日本では2000年代に入って広がった▶食の安全や環境保全型農業を推進するため、生産の各工程で一定基準の対応ができていくか記録、点検し改善を重ねていく。結果的に競争力の高い作物が生まれ、農業経営の足腰を鍛えるという考え方だ▶官民でさまざまな取り組みが広がる中で、生産者や流通業者などをつくるNPO法人がJGAPという認証制度を始めた。良い農場のお墨付きに先日、薩摩川内市祁答院のキンカン農場が加わった▶蘭牟田地に近いビニールハウスを訪ねると、ピンポン球ほどに育った果実はきれいに色づき、収穫期を迎えていた。ハウスを切り盛りするのは、松田俊一代表が栽培責任者を任せる同級生の岩元隆市さんだ▶松田さんは、農家には自分が作る物へのこだわりがあり、とにかく独り善がりになりがちだと言う。建設業から転身したから気付いたのかもしれない。それだけに「第三者がきちんと評価してくれることで、お客さんに確実に安全なものを届けられる」と認証を喜ぶ▶消費者に少しでも確かな品を、という気持ちがうれしい。名だたるホテルや百貨店で、食材の虚偽表示が表沙汰になった後となればなおさらだ。飾らなくてもいい。正直に丹念に手を掛けた食が恋しい冬である。

平成25年12月4日(水)／南日本新聞『南風録』

<http://jgap.jp/>

http://jgap.jp/navi_01/3M_GAP.pdf